

# 競 技 注 意 事 項

## 1 競技規則について

本大会は2026年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項によって実施する。

## 2 練習について

- (1) 練習会場及び競技場では、逆走、チューブ・牽引ロープ等の器具を使った練習、レーン内にミニハードル・マーク等を置いて行う練習は、危険防止のため禁止とする。
- (2) 投てき練習は危害予防に特に留意すること。投てき場以外での投てき練習は禁止する。
- (3) 投てき競技においては必ず競技役員の指示に従って練習すること。
- (4) 走路の使用は原則として以下の通りとする。状況により変更があるときは係員の指示に従うこと。

◎メイン競技場	◆1, 2レーン：中長距離	◆3～7レーン：短距離	◆8, 9レーン：ハードル	
	※練習可能時間は開門時刻～9：00まで			
◎補助競技場	◆1, 2レーン：中長距離	◆9, 10レーン（ホームストレートのみ）：100mHと110mH		
	◆3～6レーン：短距離（スタートダッシュはホームストレートスタート地点）※ホームストレートは7, 8レーンも使用可			
	◆第1曲走路からバックストレート及び第2曲走路にかけての7, 8レーン：400mH			
◎雨天練習場	◆1, 2レーン：スタート練習	◆3, 4レーン：快調走	◆5レーン：復路	◆6レーン：待機場所
	※走方向については、南(1500mスタート地点)⇒北(200mスタート地点)の一方通行とします。（厳守）			

## 3 招集について

- (1) 招集所は本競技場メインスタンド下の室内練習場に設ける。（100mスタート地点側）招集所には本競技場暴風ゲート外側より室内練習場に入る。
- (2) 招集時刻について
  - ア トラック種目（長距離種も含む）は競技開始20分前に完了する。
  - イ フィールド種目は競技開始40分前に完了する。ただし、棒高跳は競技開始60分前とする。
  - ウ 混成競技は第1日及び第2日の最初の種目については上記ア、イのとおり招集を行い、2種目以降のトラック種目は出発時刻の10分前、フィールド種目は競技開始時刻の40分前に現地での招集を行う。
  - エ パラ・トラック種目は競技開始時刻の10分前に現地で招集を行う。
- (3) 招集の方法について
  - ア 競技者は、招集完了時刻までに招集所内の席、或いは、現地で待機し、最終点呼を受ける。その際、アスリートビブス・スパイク・商標等の点検を受ける。（トラック種目のみ腰ナンバーを受け取り出発までに右腰部やや後方に付ける。）
  - イ カメラ類、ラジオ、トランシーバー、携帯情報端末（デジタルメディアプレーヤーを含む）もしくは類似の機器の持ち込みは禁止とする。（TR6.3.2）
  - ウ 代理人による点呼は認めない。多種目を同時に兼ねる競技者は「多種目同時出場届」（招集所に準備する）を競技者係に提出し、競技の進行に支障のないようにすること。
  - エ 招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権とみなして処理する。（TR4.5）
  - オ 欠場する競技者は招集完了時刻までに所定の「欠場届」（招集所に準備する）を競技者係に提出すること。
  - カ アスリートビブスは所定の大きさのまま胸・背部両面に付けること。ただし、跳躍種目は背部または胸部のみでもよい。（TR5.7）

## 4 競技の抽選及び番組編成について（レーン順・試技順）

- (1) トラック競技におけるレーン順及びフィールド競技の試技順はプログラム記載順序による。ただし、決勝の組み合わせ、レーン順は主催者が公平に決める。
- (2) トラック競技で次のラウンド進出者を決める際に、同記録があった場合は、0.001秒単位で着差判定をして進出者を決める。それでも判定できない場合は同成績とし、抽選により進出者を決める。（TR21.5）  
但し、空きレーンがあるか、走る場所がある（800m競走でレーンに複数割り当てる場合を含む）のであれば、同成績者は次のラウンドに進むことができる。（TR21.5）抽選が必要になった場合は、当該競技者にアナウンスで連絡し、大会本部で当該競技者あるいは代理人により抽選を行う。

## 5 競技について

- (1) トラック競技
  - ア 混成競技を除いて、一度の不正スタートでも責任を有する競技者は失格とする（TR16.8）。混成競技においては、各レースで1回目の不正スタートは失格にならないが、その後不正スタートをした競技者はすべて失格とする。（TR16.8, TR39.8.3）
  - イ トラック競技は全て写真判定装置を使用する。
  - ウ 100m及び200mは予選記録の上位16名でA・B決勝を実施する。また、全てのトラック種目において、予選出場者が9人以下となった場合は、決勝時刻に決勝を行う。（予選の招集完了時刻に決定）
  - エ レーンの競走においてはフィニッシュライン通過後も自己レーン（曲線）に従って走ること。
  - オ 3000m以上の長距離種目については、気象状況によっては給水を実施する。

- カ リレーに使用するマーカーは1人1カ所に限り使用することができる。(TR24.4) マーカーは前走者が取り除くものとする。
- キ リレーのオーダー用紙は招集所にて競技者係から受け取り、各ラウンド第1組目の招集完了時刻の1時間前までに1部を競技者係に提出すること。決勝においても同様にオーダー用紙を提出すること。一度提出した後の変更は、その組の招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。招集完了時刻前であっても一度提出した編成の変更(オーダー用紙の差し替え)は認められない。医師の判断による変更は、出場する競技者の変更のみ認められ、編成(走る順番)の変更は認められない。(TR24.12)

## (2) フィールド競技

- ア 競技場内での練習は、全て競技役員の指示に従って行うこと。
- イ 投てき競技の計測は光波測定器を使用する。
- ウ 投てき競技の出場者は、滑り止め剤を自身でも用意すること。
- エ 跳躍・やり投の競技者は、助走路の外側(走高跳は助走路内)にマーカーを2個まで置くことができる。(TR25.3.1) サークルで行う投てき競技は、マーカーを1個だけ使用することができる。(TR25.3.2)
- オ 携帯電話等、TR6.3.2に関わる機器は競技場内に持ち込むことができない。
- カ 三段跳の踏切板は、砂場から男子は11m、女子は8mの位置に設置する。ただし、気象状況等により変更する場合がある。
- キ 走高跳バーの上げ方は最後の一人になり、優勝が決まるまでは下表の通りとする。ただし、気象状況等により変更する場合がある。

種別・種目	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	以後1人になるまで
男子走高跳	1.55	1.60	1.65	1.70	1.75	1.80	1.85	1.90	1.95	3cm
女子走高跳	1.30	1.35	1.40	1.45	1.50	1.55	1.60	1.63	1.66	3cm

ク 「棒高跳」「混成競技」の練習及び開始の高さは当日決定する。

## 6 競技用具について

- (1) 投てき用具は、原則、競技場に備え付けのものを使用する。ただし、持ち込みを希望する場合は、当日競技開始120分前から90分前までの間に南側器具庫にて検査を受け、合格したものについては使用できる。また、検査に合格した用具は一括借り上げし、参加競技者で共有できるものとする。借り上げた用具は競技終了後に器具庫にて返却する。
- (2) スパイクの長さは9mm以下とする。走高跳及びやり投は12mm以下とする。
- (3) 競技で使用するシューズの底の厚さは、以下の範囲とする。(競技用靴に関する規程)

種目	靴底の最大の厚さ
トラック種目 ハードル種目(競歩を除く)	20mm
フィールド種目(跳躍種目)	20mm(前足部中央のソールは踵中央のソールより高くなってはならない)
フィールド種目(投てき種目)	20mm
競歩	40mm

## 7 表彰について

- (1) 各種目3位までの入賞者に賞状を授与する。
- (2) 各種目優勝者にメダルを授与する。
- (3) 表彰式は行わない。(賞状、メダルは正面ロビーの賞状置き場に取りに行く)

## 8 その他

- (1) メインスタンド開門時刻は両日とも7:30とする。
- (2) プログラム訂正は両日とも8:30までに受付へ申し出る。
- (3) 選手控え場所については、メインスタンド及びその中二階、芝コーナースタンドとし、屋内練習場内や補助競技場倉庫内の場所取りは認めない。また、中二階に場所取りする際は、**1区画の大きさを3.6m×5.4m以内**とし、他チームとゆずり合いながら使用する。
- (4) 発病・負傷に対しては応急処置を行うが、以後の責任は一切負わない。
- (5) 貴重品の管理は各人で行うこと。紛失の責任は負わない。
- (6) 記録の証明を希望する競技者は、庶務係の受付に用意した記録証明書交付願に500円を添えて申し込むこと。
- (7) 当日の記録は当協会WEBサイトにおいて発表する。
- (8) 中国選手権で実施される種目において8位までの入賞者(但し、鳥取県登録者に限る)は、中国陸上競技選手権大会の出場資格を得ることができる。なお、出場を希望する際は、**7月10日(金)までに第80回中国陸上競技選手権大会要項に定める方法で各自エントリーを終えなければならない。(従来の申込方法と異なるので注意が必要)**具体的な申込方法は、大会要項及び別紙「第80回中国陸上競技選手権エントリー資料」(本プログラム内、及び当陸協Webサイトに掲載)を参照のこと。
- (9) ゴミは各チーム・個人で責任をもって持ち帰る。